

(福)特別区社会福祉事業団

広報誌

SEED

新年号

特集

千駄ヶ谷荘

大都市の喧騒に佇む
更生施設を密着取材！

巨大都市東京の社会福祉事業とは？

「身近な地域」での社会福祉の展開が、現代の社会福祉のキーワードであり続けています。このように、特別区社会福祉事業団の運営する施設は、おそびく「身近な地域」ではなく「広域的」で「流動的」な福祉ニーズに感じようという保護施設が中心です。私は、古くからの福祉事業団の理事ですが、その前から塩崎荘との不思議な縁があり、その戦後史を調べていくうちに、東京のような大都市の福祉事業は、「身近な住民」だけを見ていては展開できないのではないかと考えるようになりました。

特別区社会福祉事業団の運営する施設は、保護施設のうち更生施設と宿所提供施設、宿泊所が中心で



理事 岩田 正美
日本女子大学 名誉教授

すが、保護施設は2022年時点で全国に290箇所あり、うち更生施設は19箇所、宿所提供施設は14箇所しかありません。更生施設19箇所のうち11箇所が、宿所提供施設14箇所のうち10箇所が東京都にあります。これらの直接のルーツは、敗戦後の東京の被災者や引き揚げ者に加えて地方から流入した人々が形成した「仮小屋」群にありました。

仮小屋撤去のために施設を作ったのです。しかし、実は戦前から、東京に流入する「求職者」のための一泊ごとの労働宿泊所、さらには食堂や浴場などの、都市低所得者のための社会福祉事業が展開されていました。戦後の東京都民生局長も務めた磯村英一は「都市社会事業経営」という言葉で、このような大都市特有の社会福祉を考えることを示唆しています。

経済成長を経て、東京はいまや一極集中などと表現されるような巨大都市となりましたが、その過程でも、東京に更生施設や宿所提供施設が維持されてきたのは、東京という大都市が、巨大な富を引き付け、その集積地になるだけでなく、失業や貧困、暴力や差別などから逃げ出した人びとの「逃げる先」となってきたからです。山谷のよう

な日雇労働者の寄せ場が高度経済を支えましたが、それらの人びとの失業や高齢化の問題が発生しました。東京は難病や障害に苦しむ人びとの医療や教育の機会も拡大していきますが、その病院からの「帰来先なし」の人びとをどうするかという問題がありました。繁華街は、顧客だけでなく家や学校に居場所がない青少年を引きつけていきます。富という光だけ東京に注がれて、その影は付いてこないでくれ、というわけにはいかないのです。

前号に副理事長が書かれたように、1965年の福祉事務所の区移管のような「身近な地域」の社会福祉化がその後も進んでいます。が、区移管による弊害を共同処理によって解決しようとしたように、広域性や流動性を前提とした福祉事業による補完がないと、大都市の社会福祉は行き詰まってしまいます。「身近な」地域福祉という標準型ではなく、大都市ならではの社会福祉事業を模索する中に、福祉事業団の役割が明確になってくるのではないのでしょうか。

〔撮影：早瀬〕

特集

更生施設 千駄ヶ谷荘

Pickup

宿泊所 千歳荘

新宿区 地域生活安定
促進事業

特定被保護者

入所調整事務
円滑化事業

千駄ヶ谷荘



◆施設概要
 利用対象者 男性単身
 定員 入所60名 / 通所30名
 5階建て

◆所在地
 〒151-0051
 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-34-3

所長インタビュー

特集 更生施設 千駄ヶ谷荘



や自信にも繋がると考えています。たとえ服薬管理がうまくできなくても、施設にいる間はやり直しが可能です。うまくできなければ、施設全体で次の取り組みを考えて実行していきます。

取り除くことができない課題を抱えながら、どうやって自立生活を送っていくかを支援するリカバリーの視点を福祉事務所と共有し、施設を出た後の支援について提案することもあります。通所事業に繋がった高齢の利用者であれば、地域生活を確認したうえで認定調査を入れて、地域包括支援センター、ケアマネージャーと繋げ、訪問介護を導入する等、私たちが専門性を持って自立した地域生活ができるように支援することで、利用者のみなさんが健康で自立した生活を長く送り、その結果として福祉事務所の負担を軽減することも目標としています。

地域移行に向けた取り組みとして、利用者の変化を捉えて、切れ目なく迅速に対応するために、法人内の利用者情報システムを活用して施設職員全員で利用者の情報を共有することも重視しています。週に1回は看護師と所長で全室をまわって利用者全員に声かけを行い、その時の様子も記録に残します。指導員や栄養士、看護師も、利用者の担当指導員に限らず、些細な世間話でも支援のポイントになることがあるため、しっかりと記録に残します。その記録をシステムによって全員で共有することで、一人の利用者と施設全体で関わるのが可能となります。担当者は、記録等を基に、自分の支援を振り返る意味も含めて定期的にモニタリングを行います。ただ記録を残すだけではなく、定期的に利用者との社会的な金銭管理の状況、体調、今後どのように支援するか等をまとめることで、記録を支援に活かしています。

Q・施設を取り巻く状況を教えてください
 更生施設は、入所率が下がっていると言われています。千駄ヶ谷荘でも満床には至っていません。一方で、地域生活を想定した利用者本位の支援を職員が率先して行っているおかげで、利用日数の短縮と地域移行率が上昇している点も影響しています。これまでの支援に関する施設の取り組みが職員に定着してきたこともあり、昨年度比で地域移行率が約15%上昇しました。現在も空きはあるので、利用していたらよくことで福祉事務所の負担に伝えていきたいと考えています。

最近の傾向としては、帰来先がなく病院から直接入所する方が入所者の半数を占めています。障害者施設や高齢者施設に移る方もいれば、アパート転宅される方もいますが、利用者によ



千駄ヶ谷荘 所長
 秋葉 光助

更生施設千駄ヶ谷荘は、生活保護法に基づく施設で、利用対象者は「身体上又は精神上の理由により養護及び生活指導を必要とする男性単身の方」です。この度、千駄ヶ谷荘所長に質問形式によるインタビューを行いました。

出身地：東京都（陣馬山麓）
 入職のきっかけ：当事業団の法人理念に感銘を受けたため
 好きな食べ物：
 甘くてベタベタしているもの



↑施設内にモダンアートを取り入れている。

Q・利用者支援について教えてください
 一番強く意識しているのは「利用者がどうやって地域に移行するか」ということです。アパート転宅、高齢者施設やグループホーム等への福祉施設移管など、利用者のみなさん、一人ひとりに合った自立を実現するために、ストレングスの視点やエンパワメントに重点を置いています。

例えば、服薬管理や通院同行に関して、施設で支援しても地域移行後は利用者が自分でやらないといけない。職員が把握/管理していれば安心」という支援者側の気持ちを優先するのではなく、利用者の状態等を評価して、支援の要・不要を見極めます。すべてを引き受けるのではなく、利用者ができることは、きちんとできる」と評価し、信頼して任せるところで利用者さん自身の自己肯定感の向上

めに、フレイブル予防教室や歩行会、看護師と栄養士による定期的な口腔ケアなどを実施しています。

また、施設だと閉鎖された空間となってしまうことも多いですが、外部との差がなるべく少なくなるように改善を図っているところ。施設には、20代から80代の幅広い年齢層の方が入所し、精神疾患がある方や、逆に疾病のない方、働いている方やそつでない方など、属性は様々です。そのため、ちょっとした空間においてもユニバーサルデザインを意識するようになっています。

廊下や階段の踊り場にはアート作品を展示することで、文化的で清潔感のある施設を目指しています。何気ない空間を充実させて、文化的な意識も育てなければと考えています。

Q・職員や施設の雰囲気については？
 利用者のみなさんだけではなく、職員も安心安全で健康な生活を送れるよう常に心がけています。外周の緑化整備や施設内を清潔に保つことによって、誰もが気持ちよく生活することができるよう、世間とすれがないうちに意識しています。利用者のみなさんから見ると子供や孫のような年代の指導員が多くいます。懇談会や外出の行事の際も適切な距離感と関係性が保てており、利用者のみなさんと職員がお互いに尊重しながら千駄ヶ谷荘での生活を過ごしています。あいさつや声掛けが利用者のみなさんを含めて習慣化されていることや、食育を行うことで食事の欠食が少なくフードロスなどの意識が強いことも千駄ヶ谷荘の強みであると感じています。

職員には、年齢や経験だけではない人間力を感じています。職員それぞれが通ってきた道、持っている知識を尊重したいと思っています。私は法人に入職して3年目ですが、法人全体で職員育成に力を入れているのを実感します。



「編集」増村、撮影「早瀬」

宿泊所 千歳荘

当法人が運営する施設は生活保護法に基づく施設が多い中で、宿泊所千歳荘は社会福祉法に基づく施設です。職員は中西さんに施設の概要等についてお話を伺いました。

—— 担当業務について教えてください
住む場所を失くしたり、経済的に困窮したりして、生活の維持が難しくなった方、また、同居の親族との不和や、暴力から避難してこられた方等が、生活を立て直されることをサポートしています。

千歳荘に入所されてからは、まずは心身ともに、ほっと落ち着かれるといいなと思います。「いつでもお話し、聴きますね。」というメッセージを伝えるように心がけています。

—— 利用者への思いが深いハンドブックがあれば教えてください
夫のDVを受け避難した母子世帯（本人と小学校低学年）の話です。夫と3人でお住まいでしたが、夫の暴力に対し、お子さんが2人の間に割って入るといふ出来事があり、それをききか

かな周辺環境の中で、落ち着いて今後このことが考えられると思います。地域において、人の暮らしを程よく感じ、アパートに近い状況で生活しながら、必要な時に職員に相談できる環境です。

また、職員間のコミュニケーションがよく取れていると感じます。事務所の中に、相談、報告しあう雰囲気があるため、担当者以外も利用者の状況を把握しています。職員それぞれの人生経験・職務経験・

価値観が異なるので、違った考え方の意見を出し合いながら、その人にとってどのような支援がいいのかを検討しています。

けに避難を決定されました。この世帯には様々な支援者が関わり、チームとして支援しました。特に児童相談所の児童福祉司が手厚く関わり、母子の面談と、子のみの面談をこまめに実施しました。その中で、子に対して、なぜ避難することになったのか、今後の生活について、どう説明するのが良いのかと相談があったことを受け、紙芝居を作り「お父さんとお母さんは一緒に暮らしていました。〇〇くんが生まれました。2人はとても嬉しかったです」という所から「これからは離れて暮らしていきます」に至る内容をお母さんからお子さんに伝えることになりました。母子の間で丁寧なやりとりがなされたと思います。

また、転居については、転職、子の教育、父と子の面会等のことから生活圏を悩まれましたが、弁護士等に相談しながら、地元への引っ越しを決意されたため、女性相談員が転居先の福祉事務所と連携しながら、DV被害者世帯向けの公営住宅の調整をしました。

千歳荘では、一時保育や、心身のケアのためカウンセリング、地域のピアサポーターの活用など、困窮な状況にある人を支援するネットワークに参加しています。社会福祉協議会の事例検討学習会や、所在区にあるNPOが主催する支援関係者の地域ネットワークのオンライン会議などに出席し、意見交換して知識を深めています。

ポートの利用調整、また感染症にかかった際には、通院や生活のサポートをしました。入所期間が3ヶ月と限られる中で、各機関の支援がうまくかみ合い、新しい生活へと踏み出されたことが心に残っています。

—— 支援する上で大切にしていることを教えてください
生活の一番近くにいる支援者として、日々の生活を見守りながら、戸惑いや苦しさ、悩みに耳を傾けています。そしてその中から見えてくる、希望される生活に向かって支援しています。母子世帯では、お母さんが子どもと毎日ふたりきりになり、息が詰まることもあるので、職員が子どもと遊んでいるひとときだけでも、肩の荷を下ろすことができれば、とも思っています。寄り添う事しかできないと感じることもありますが、それが施設職員の役割の一つかなと感じています。

—— 施設の良いところ、特徴などを教えてください
プライバシーが守られる個室と、静

—— ブロック施設（※注）である千駄ヶ谷荘との連携について教えてください
感染症の対策・対応方法や、療養施設など社会資源に関する情報などは、看護師の所属する千駄ヶ谷荘に相談し、助言を得ています。また、防災計画の策定において協同したり、千駄ヶ谷荘内にて実施している研修に参加したりしています。

そのほか、法人が実施している「職場交換研修」を千駄ヶ谷荘と千歳荘の職員で実施した際には、参加職員が研鑽を積めただけでなく、ブロック内の連携が深まりました。有事の際にはフォローしあうこととなるため、普段の業務を知っていて、職員同士の関係性が保たれていることでスムーズな対応ができると感じます。

「編集」清水、撮影「中西」

（※注）平成5年4月1日から更生施設を中核としたブロック制を導入。更生施設、宿所提供施設、宿泊所の相互協力体制を確立したものです。

（※注）平成5年4月1日から更生施設を中核としたブロック制を導入。更生施設、宿所提供施設、宿泊所の相互協力体制を確立したものです。



中庭の金柑：収穫して利用者に配布している

施設概要

利用対象者：家族、女性単身等

（原則、23区内の非生活保護受給者）

定員 34世帯48名

地上5階建 エレベーターあり

※秘匿の施設のため、所在地や電話番号等は掲載していません。詳しくは法人本部（03-6666-1046）までお問い合わせください。



インタビューにご協力いただいた中西さん



施設行事としてハーバリウム（インテリア）作りを実施



多目的室：利用者の憩いの場となっている



居室：食器等の物品が整備されており、即日入居も可

新宿区地域生活安定促進事業

当法人が新宿区から受託をしている「新宿区地域生活安定促進事業」では、生活保護受給者への支援を実施しています。職員の高橋さん（以下、高）と田中さん（以下、田）にお話を伺いました。

Q1. 事業内容について教えてください

（高）宿泊所等で生活する元ホームレスなどの生活保護受給者に対して、相談援助、居宅生活移行支援、地域生活安定支援を行い、継続して社会生活が営めるよう支援をしています。いずれの事業も、福祉事務所のケースワーカー（以下、CW）が受け持つ業務の中から、その一部分を担うため、幅広い内容となっています。

Q2. 相談援助事業の支援内容は？

（高）宿泊所・日常生活支援住居施設（以下、日住）・簡易旅館等で単身生活をしている対象者に対し、随時、面談や状況確認のための訪問や同行を行います。支援目標を達成するために、柔軟に対応しています。対象者に会うと、普段、口が重そうの方も、「自身や生活のことをあれこれおしゃべりします。職員は対象者が関心ありそうな話題を提供したり、それぞれの状況に相應しい会話環境を作り、支援関係を深めています。その中で、CWが知り得ていない情報を入力することもあります。その場合は対象者の承諾を得たうえで、CWに情報提供しています。そうすることで事故事件等を防止、もしくは軽減する効果もあります。

Q5. 福祉事務所の施設連携係との連携について

（高）報連相は随時、定期的に行っています。担当の定例ミーティングに出て、支援についての意見交換も行います。

（田）訪問する前に「CWに」対象者（なにか聞いてみる）とありますかと声をかけて行くようにしています。必要に応じて、対象者と関わった時の様子等を「訪問メモ」に書いて、CWに渡しています。

Q6. 印象深いエピソードはありますか？

（高）現在、宿泊所等には高齢者の対象者がおり、年齢・身体的に更なる支援が必要な方が目につきます。CWは、随時適切な施設への利用を働き

支援内容

- 1. 相談援助事業（日常生活、住所設定等の支援）**
食生活、健康管理、家計管理、住所登録手続き等の相談、同行
- 2. 居宅生活移行支援事業（アパート移行の支援）**
転宅先の希望聴取、不動産業者への同行、契約手続き等の相談、情報提供等
- 3. 地域生活安定支援事業（アパート移行後の支援）**
訪問や電話による見守り支援、食事・服薬・金銭管理・室内の状態の確認等

（田）10代から90代までの対象者がいて、状況も千差万別です。その人に応じて、必要だと思ったら柔軟になんでも支援します。

（高）対象者は、将来の心配や孤独を話すこともあります。職員はその理由を丁寧に聞き取り、話を共感的に理解する対応を心掛けています。当事業は、支援目標を達成する以外にも、対象者の心の隙間を埋める役割を担っています。職員が居所を訪ねると、多くの対象者は喜んでくれます。もちろん受け取りませんが、シユースやアイスを用意して待っていた対象者の方もいました。

（田）何度か訪問すると自然に親しくなるし、話し相手になること自体が対象者にとってプラスになると思っています。1時間くらい話をすることもあります。（高）今後、CWと協働して対象者と関わっていきます。



職員の田中さん（左）と高橋さん（右）

かけていますが、対象者は施設生活に対して先入観を持ち抵抗や不安を示す方もいます。相談援助事業において、福祉事務所の承諾に基づき、施設の正確な情報を知ってもらうための「養護老人ホーム見学会」を今年度は2回実施しました。今後も継続する予定です。

（田）宿泊所は一時的な住居なので、それぞれの対象者に合う行き先を支援するのが僕らの仕事です。ただ、より良い環境を提案しても、老人ホーム等の施設はルールに縛られて窮屈と思い、それに比べて宿泊所は自由があると感じていて抵抗を示す方もいます。実際に見学会を行うと、ダイレクトに施設生活のメリットが伝わります。

（高）1回目の実施では3名中2名が、2回目の実施は5名中2名が施設利用の申し込みに至りました。宿泊所等から老人ホームへ入所すると、全体的な暮らし方に変化が生じます。今後高齢化に伴い、養護老人ホーム等の施設利用が必要な方が増える可能性があります。対象者が施設生活の必要性を軟らかく受け止められるよう、また年齢等の状態に応じて快適な暮らしができるよう「適切な時期・必要な施設」をテーマに対象者に施設利用を働きかけていきます。

（田）対象者の方に対して、より良い環境に行ってもらいたいという気持ちがあります。

Q3. 居宅生活移行支援事業の支援内容は？

（高）様々な理由でアパート確保が困難な方が、アパート生活を希望した場合、身分証明や携帯電話、緊急連絡先等のアパート契約の要件を整え、不動産業者と交渉し、アパートが借りられるように尽力しています。物件等の希望の聞き取りから始め、対象者が具体的に住まいのイメージを描けるよう丁寧に説明します。通院をしているなら、病院や薬局との物理的な距離。公共交通機関の利便性など、対象者の生活を支えるために必要な条件を確認しています。物件探しには、CWの意見も聞き取ります。CWの意見は、対象者に十分に説明して同意を頂いています。

Q4. 地域生活安定支援事業の支援内容は？

（高）地域生活安定支援事業では、対象者の居所を月に1度、訪問しています。対象者の生活を丸ごと理解し、地域生活の安定を図ることが支援の柱です。対象者に、生活の困りごとやCWに伝えたいこと等、生活状況を聞き取ります。困りごとの緊急性が高い場合は、すぐにCWと協働し、速やかに訪問を行い、面談して問題解決に取り組みます。大難を小難、小難を無難に変えられるように、きめ細かい対応を心掛けています。

根気強く丁寧に説明したうえで、「このままでいい」という方は少なからずいますね。環境が変えられない時は、パソコン教室や金銭管理の講習等、その方に合った社会資源を紹介することもあります。

（高）居宅生活移行の支援では、物件の契約審査が通過した時の対象者の笑顔や喜びが、なにも代えがたいプレゼントです。事業への願いを一言で表すなら「対象者・CW・訪問サポート職員の三者が共に笑顔絶やさないようする」。この一言に尽きます。

編集＝増村、撮影＝中西 玲

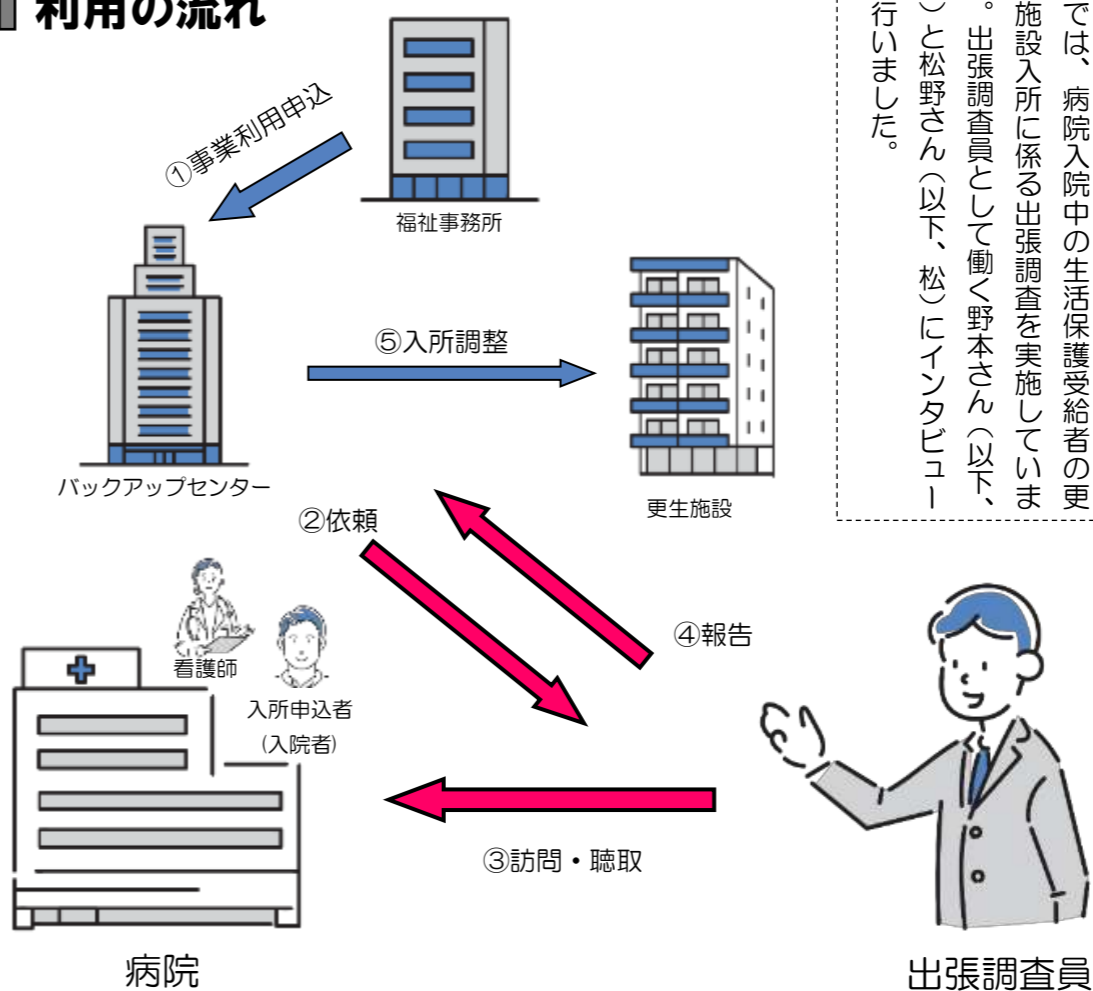


特定被保護者

入所調整事務円滑化事業

当法人がバックアップセンターから受託している特定被保護者入所調整事務円滑化事業では、病院入院中の生活保護受給者の更生施設入所に係る出張調査を実施しています。出張調査員として働く野本さん（以下、野）と松野さん（以下、松）にインタビューを行いました。

利用の流れ



― 事業の内容を教えてください ―

(野) 病院に入院中であり、更生施設へ入所申込をされた方については、入所前に病院を訪問して、ご本人から30分程度、病院スタッフ（医師、看護師、MSW、PT、OT）から30分程度、バックアップセンター（以下、BUC）が入所調整に必要な調査を行います。その調査内容を調査票にまとめてBUCへ提出して、入所調整に役立ててもらっています。ご本人への調査は、まず、施設写真を確認しながら、更生施設の概要を説明します。実際に入所したら「こんなところだと思っていなかった」と齟齬がないようにしています。

質問内容は入院のキッカケや病状について医師からどのように説明されているのか、病識の有無等、人となりを伝えられるようにご本人が話した通りに記入するようにしています。他にも目線や落ち着きの度合い、雰囲気や言動についても調査票に記入しています。実際にお会いしたほうが得られる情報は多いです。

(松) 他にも病気の捉え方ですとか、言い回しを含めてそのまま調査票に記入しています。方もそのまま調査票に記入するようにしています。

― どのくらいの範囲の病院に行かれるのでしょうか ―

(野) BUCからの依頼に基づいて調査へ行きます。遠いところだと山梨県の石和温泉ですとか、前任は栃木県の宇都宮まで行ったそうです。総合内科にも行きますが、ほとんどが精神科となります。

― コロナの影響はありましたか ―

(野) ご本人と直接お会いすることが出来ず、オンラインでの調査も実施しています。ただ、直接お会いしたほうがご本人の人となりわかりやすいですね。

様々なケースを リサーチ して支援に繋ぐ

― 本事業におけるやりがいを教えてください ―

(野) 話が弾む・弾まない、入所の意思が有る・無いという個別の話ではなく、生活保護が開始されて間もなく、更生施設がどんな所か不安な方に対して、こんな職種の職員がいて、相談しながら支援をしていきますよ。という話をしたときに「そういう所なら安心しました」と前向きに考えてくださったことがあって、やって良かったなと思います。

他にも、認知症やADLの問題で「更生施設の支援にそぐわないのではないか」という場合もあります。事前に更生施設についての説明や確認を行うことで、ミスマッチを減らせる場面が何度かありましたので、その点においても本事業の意味を感じました。

(松) この間も、地方に帰るか更生施設に入所するか迷っている方がいて、実際に施設紹介をしたところ「この施設の近くでアパート転宅しようかな」という前向きな話を聞いて、「この事業の意味を感じました。事前に情報を得られることで、選択肢を広げられる良い機会なのかもいいですね。」

― 今後力を入れたい業務はありますか ―
(野) 更生施設の職員は病院スタッフから直接話を聞く機会はなかなかないと思います。情報はなるべく調査票に記入するようになっているので、調査票は更生施設にも送付されますが、すべてを渡すことは

出来ない場合もあるので、施設にはその部分を伝えていく事が出来たらと思います。昨年度は、更生施設の新人向けに各施設を回って本事業を紹介しました。今年度は、本事業を知ってもらったため、施設職員が調査に同行する「出張調査体験」を実施しています。

― 本事業の良い点 特徴などを教えてください ―

(野) 病院スタッフがご本人と熱心に関わり、退院後も関係性があったり、各病院の様々なプログラムや病院スタッフを知れたり、それぞれの病院の特徴を知ることが出来ます。

― 私自身も更生施設に勤務しておられて、調査票の内容はご本人の性格や特徴がわかりやすく、理解しやすいです。利用者支援に役立っています。 ―
― 当事業を一言で表現してください ―

(野) 一期一会。利用者さんとずっと関わりを持つわけではなく、良くも悪くもその場限りの関わりです。そのため、その時間を大事にしたいと思っています。

(松) 私たちがあまりにもキッチリとした服装や態度で病院を訪問してしまうと、相手も緊張してしまいます。親しみを持ってもらいやすいように配慮することや言葉遣いも含めて工夫しています。ご本人の人となりを引き出せるように心がけています。

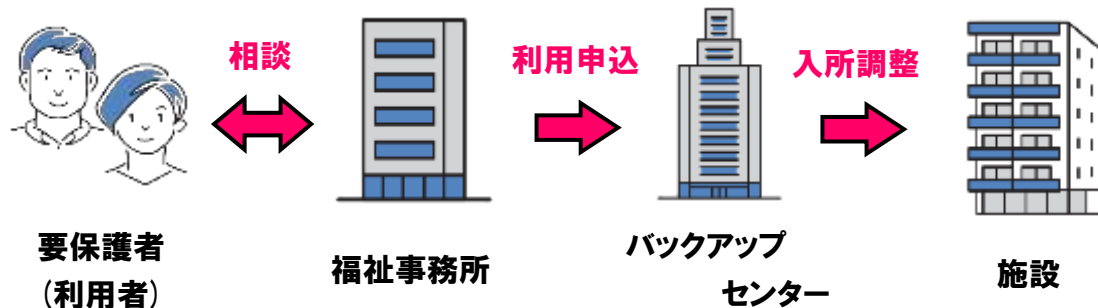


― 関係者の皆様にお伝えしたいことはありますか ―

(松) BUCの入所調整やその後の支援に役立てられるよう調査をおこなっています。更生施設を支援の選択肢の一つに入れていただければと思います。

(野) ご本人及び病院スタッフの皆様には時間を取っていただいていますので、大変お手間かと思いますが。福祉事務所のCWの皆様も入所までの過程に当事業が加わることで、時間がかかってしまうと思われてしまうかもしれませんが、いただいた情報をしっかりとお伝えして、調査した内容がより良い支援に繋がられるようにしていきます。

施設利用・申込について



福祉事務所のみなさま

更生施設 千駄ヶ谷荘

バックアップセンターへご連絡ください。

(03-5210-9035)

宿泊所 千歳荘

バックアップセンターへご連絡ください。

(03-5210-9037)

※その他 施設利用に関するお問い合わせ

(03-5210-9032)

医療機関等・支援関係者のみなさま

施設への入所は、福祉事務所からの依頼が必要です。まずは担当のケースワーカーへご相談ください。また、法人本部（03-6666-1046）まで直接お問合せいただくことも可能です。

バックアップセンターとは？

施設の入退所の調整を行うところです。特別区人事・厚生事務組合が運営しています。略して BUC または B/C と表記することもあります。塩崎荘はバックアップセンターの調整なしで入所可能です。

事務局 清水のしょうもない話

子どもの食事に関する話です。

幼稚園では、イスに座って残さずお昼ご飯を食べているのですが、家だとそうはいきません。「お家でも同じように食べてほしいな」とお願いしてみたところ「幼稚園とお家の私は違うの!」と言われました。その言葉で「アナと雪の女王」の主題歌を思い出しました。ありのままの私でいられるという事です。

編集後記

広報誌も3回目の発刊となり、制作のコツが掴めるようになってきました。大変ですがとても楽しい作業です。これもひとえに取材にご協力いただいた皆様や、周囲の方々のサポートあってのことです。心より感謝申し上げます。

【制作・編集担当】中西(玲)

本号の COVER MODEL

指導員 関根さん

学生時代は吹奏楽部に所属しており、バリトンサクスの演奏ができるそうです！とても大きな楽器なので持ち運びが大変…ということで、代わりに趣味でやっている折り紙と手作りのお菓子を持って来てくれました。



今年は辰年なので、わざわざ龍を折ってきてくれました。普段折らないので難しかったとのこと。



今回お持ちいただいたのはフォンダンショコラ。マカロンやガトーショコラも作るそうです。